パネル　2013年度せんだいメディアテークでの企画

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2015-05-30 キーワード (Ja): キーワード (En): Tohoku Gakuin University 作成者: 東北学院大学文化財レスキュー班 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/362

鮎川とこれから

パネル作成：小野紘輝
佐藤麻南
高橋真結子

◉ 鮎川の概要

鮎川は、牡鹿半島突端の港町です。金華山にほど近いこの町は参拝客が多く、また好漁場であることから様々な漁業が営まれていました。現在全国に 4 つある捕鯨基地の 1 つであり、また調査捕鯨の調査海域にも指定されています。

○「捕鯨の町・鮎川」のはじまり

鮎川はクジラ資源に恵まれたことから捕鯨業が定着しました。鮎川において捕鯨業が有望であることが知れ渡ると、鮎川には次々と捕鯨基地が設立され、また他地域から捕鯨のために人々が移入しはじめました。これが「捕鯨の町・鮎川」のはじまりです。

○ 鮎川捕鯨の発展

明治 42 年鮎川に「ノルウェー式捕鯨法」という新たな捕獲方法が導入されます。これはロープ付きの銛が装填された大砲を鯨に打ち込む方法で、これにより大型鯨類の捕獲に成功しました。また鯨の肉や骨を使った肥料製造業も発展し、鮎川にとって捕鯨はなくてはならない基幹産業にまで発展します。

○ 鮎川捕鯨の衰退

鮎川の捕鯨産業は、国際規制による商業捕鯨の全面停止以降徐々に衰退していきます。鮎川で盛んだったミンククジラ漁も禁止されてしまいました。現在鮎川では、小型沿岸捕鯨の許可を保持し続け、他地域の捕鯨船と共同操業を続けています。また、ミンククジラの調査捕鯨も行い、全盛期ほどの活気はありませんが捕鯨が続けられています。

◉ 鮎川とのつながり

昨年から私たちはお預かりしている資料を現地で展示し、資料にまつわる思い出のエピソードを収集する活動をはじめました。展覧会の開催にあたっては現地の方々、特におしかのれん街の方々、復興ボランティアに携わる方々のご理解とご支援をいただきました。

○ 関係の深まり

今年の展覧会では、老人ホーム・デイサービスでの聞き書きや捕鯨会社を訪問し捕鯨についてお話を聞くということも新たにはじめました。夏の鮎川での活動により、老人ホーム・デイサービスへの再訪問や鯨祭りに声を掛けていただくことにつながりました。こうしたことを積み重ねることでより現地と深く関わっていくことができます。

○ 今後の展望

これからも展覧会や聞き書き調査を通じて、物と思い出、人々の関係をつなぎ、牡鹿半島のくらしを復元してゆきます。

現在お預かりしている資料は 2015 年をめどにして、聞き書きデータとともに石巻市にお返しすることになっています。現地の方々とのつながりを深めてゆく中で、返却後の資料の活用方法も見い出してゆければと考えています。

展示スタッフの集合写真